



## 平成 28 年度 SGH実践始まる

4月16日(土)の3.4時間目を活用して、NPO 法人 NIED・国際理解教育センターより3名の講師を招き、今年度の第1学年SGH課題研究の実践が本格的に始まりました。導入プログラムとして「世界の現状を知り考える学習」を8時間行います。その第一回として「世界と肯定的に出会う～人と世界の多様性と同一性～」というテーマタイトルで2時間の学習に取り組みました。この学びのねらいは以下の3点です。

- ① 参加型で学び合うワークショップのポイントを体験的に理解する。
- ② 人や世界の多様性を実感し、違いを肯定的に受け止めると同時に心の同一性にも気づく。
- ③ 人の価値観は多様であり、一方の価値観の押しつけは対立につながることに気づく。

ファシリテーターによる概要説明を受けた後、さっそく生徒は4～5人のグループをつくり、ワークショップを開始しました。1つ目に「メンバー全員に共通すること」など3つのテーマについてブレインストーミングの練習を行いました。自由に意見を述べる形式なので、どのグループも活発な意見交換が行われていました。各グループは国際コースと啓明コースの混合ですが、こうした活動は初めて話しをする人との距離を縮める効果があります。



ワークショップの2つ目は、グループごとに「どこか懐かしい、人に役立つロボット」の提案です。10分間の話し合いにより、模造紙にそのロボットの名称や機能を表現しました。その後、自分が良いと思ったロボットにシールで投票してトップ3を選出しました。生徒はワークショップとは、発散と収束を繰り返すことで、協力してより良いものを創造する学びであることが理解できました。

続いてワールドクイズに取り組みました。20問のクイズをメンバーで分担して解き、解答をグループ内で共有し、正解を確認しました。この取り組みは正解数の多さを競うものではなく、自分が知らない世界の多様性や、日本では想像もつかない海外の文化や社会事情などに触れることです。

4時間目はグループを組み替えて行いました。1つ目の実践として、世界の多様性を学ぶ前提として、身近な人間であっても考えや価値観が違うことを学ぶ取り組みを行いました。「犬より猫が好き」「自分の人生に満足している」「いじめはなくなならない」など6つの質問に対して、「はい、どちらかというとはい、どちらかというといいえ、いいえ」の4種類のカードを提示して、各質問に答えるものでした。もちろんグループ内の生徒と同じ答えもありますが、違う答えも出てきます。そして資料「私の当たり前＝あなたの当たり前？」を読むことで、日本の常識と世界の常識とは大いに異なることを理解しました。

最後の取り組みとして、「どんな時に嬉しくなりますか」「どんな時に悲しくなりますか」など4つの質問に答を書き、人との違いがあると同時に、人間の喜怒哀楽には共通性もあることに気づきました。

以上のプログラムを経て、生徒たちが学んだ事柄をまとめると、

- ① チームで意見を出し合い、互いに積極的に評価することの大切さ。
- ② 価値観の多様さ。異なる価値観を尊重すること。
- ③ 人間の心には同一性があること。

ということです。自分の意見を発信することはとても大切なことですが、人の意見を十分に尊重した上で自分の意見を述べること、価値観の違いを前提にすること、しかし人間としての根幹は共通していることを、少なからず実感できた2時間の学びでした。

では最後に学習者のふりかえりシートからコメントをいくつか紹介します。

1. 発見したこと、気づいたこと、わかったこと

- ・「世界のことを自分はよく分かっていないこと。」
- ・「違う意見が多くても、その中に何か共通点があった。」
- ・「意見を共有するのは楽しい!!」
- ・「コースが違って、はじめて会った人でも、話し合いを通してすぐに仲良くなれたこと。」
- ・「国によっても考えが違うのに、同じ日本人でもこんなに考えが違う事が分かり、びっくりしました。」
- ・「世界に出て、自分たちの常識は通用しないと思った。」

2. 大切だと思ったこと、これから実行しようと思ったこと

- ・「否定的ではなくポジティブに考えること。」
- ・「人にはちがうところもあるけれど、喜怒哀楽などの根本にある感じ方は同じということが分かり、そのことを常に頭に入れ、自分がされていやなことはしないようにこころがけることが大切だと思いました。」
- ・「相手の意見を受け止めて、その上で目標に向かって進めていくことが大事だと思った。」

